

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 7日現在

機関番号：11101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21720002

研究課題名（和文） 時間現象の倫理的探究－ハイデガーとレヴィナスの相互照明－

研究課題名（英文） The ethical research of time phenomenon, the mutual illumination of Heidegger and Levinas

研究代表者

横地徳広 (YOKOCHI NORIHIRO)

弘前大学・人文学部・講師

研究者番号：00455768

研究成果の概要（和文）：本研究では、ハイデガー哲学とレヴィナス倫理学を互いに照らし合わせながら、両者を二つの中心として〈時間のエティカ〉を楕円上に描き出し、その内実を明らかにした。しかし、この〈時間のエティカ〉には空白が残っており、これを埋めべく、本研究では、ハイデガー哲学の批判的継承者である九鬼周造によって展開された「いき」の倫理学が呼び出される。この倫理学は、九鬼がその現象学的解釈学を介してものした三つの主著『「いき」の構造』、『偶然性の問題』、『人間と実存』のあいだに見出されるトリニティーとして、時間、世界、超越の観点から特徴づけられた。以上のような、時間的二者関係に対する倫理的考察をふまえ、本研究では、社会的三者関係に対する政治哲学への展開も準備している。

研究成果の概要（英文）：In this research, illuminating a elliptic correlation between Heidegger's Philosophy and Levinas's Ethics, we interpret this correlation as Ethics of Time. But there are blank spaces in the elliptic correlation. To fill these spaces, Kuki's Ethics of Iki is needed in this research. From points of view of time, world and transcendence, his Ethics contains a philosophical trinity, which is found among *The Structure of Iki*, *The Problem of Contingency* and *Human and Existence*, that is, among his major works which are based on his phenomenological hermeneutics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：時間、倫理、超越、世界、ハイデガー、レヴィナス、九鬼周造

1. 研究開始当初の背景

20世紀最大の哲学者マルティン・ハイデガー

ーが著した『存在と時間』（1927年）は、彼の批判的継承者であるエマニュエル・レヴィ

ナスやカール・レーヴィット、九鬼周造や和辻哲郎によって、まずは内在的に解釈されていた。彼らに分かちもたれていたのは、『存在と時間』を中心とした思考圏における超越の構図である。つまり、時間性が存在論的な超越を介して存在者的な超越を意味づけるというものである。さまざまな存在者との関わりである存在者的超越の可能性の条件が存在論的超越であり、さらに、この存在論的超越の可能性の条件が時間性の脱自的地平だというわけである。このような超越論的哲学の構図をふまえながら、彼ら独自の哲学はハイデガー批判として形成されていく。

しかしながら、こうしてハイデガーとその批判的継承者たちの相互的影響関係を有機的理論体系として捉える課題がまだ残っていた。

その有機的体系に肝要なことを示すために、本研究でハイデガー哲学とともに研究対象の軸となるレヴィナス倫理学の独自性を最初に確かめなければならない。ハイデガーの場合、存在者的超越から存在論的超越を介して時間性という最根源へとむかう構図であったが、これをレヴィナスは転倒していく。すなわち、性的差異に隔てられた自己他者関係がまずもって時間の生起を可能にすると主張し、時間的意味の生成がおこなわれる原初の場を自己他者関係と見定める。

ハイデガーの批判的継承者たちは、総じて『存在と時間』には本来的な他者が不在であることを指摘していた。しかしながら、レヴィナス独自の倫理学はレーヴィットや和辻と比較しても、その徹底性が際立っている。レヴィナスがハイデガーとともに、楕円の有機体系の中心二つで一方をになう所以である。

2. 研究の目的

時間の本質に迫った広義の現象学者たちのなかでも、ハイデガーとレヴィナスを中心に織りなされた相互的影響関係のうちに、〈時間のエティカ〉というコンストラクションを見出すことが本研究の目的であった。

本研究を遂行するさいに着目されたのが、ハイデガーとレヴィナスのあいだで共有された基幹概念である時間・世界・超越の相関関係である。この相関関係を光源としてハイデガーの批判的継承者に独自の哲学を照らし出すことで、その独自性がいつそう際立ち、〈時間のエティカ〉という有機的体系の姿が見えてくる。

3. 研究の方法

(1) ハイデガー、レヴィナス、レーヴィット、九鬼や和辻といった現象学者たちが残した哲学テキストを内在的に解釈する。ただし、相互的影響関係の考察がなされるかぎり、

批判的継承者たちのハイデガー解釈が『存在と時間』に内在した視点からなされているのか、この点を丁寧に確かめる。(2) こうした解釈を検討した成果を研究者間で相互検討する。(3) 研究成果を学会や著作で公表し、批判的検討を受ける。

4. 研究成果

時間・世界・超越の観点からハイデガー哲学とレヴィナス倫理学の内実を照らし出し、両者が2つの中心となった楕円状の有機的体系を〈時間のエティカ〉として描き出すプロセスを本研究は進んだ。

このプロセスのなかで一貫して注意されていたのは、レヴィナスがハイデガー哲学の内在的解釈をふまえ、レヴィナス倫理学の言語とハイデガー存在論の言語をそれぞれへと翻訳しながら、レヴィナス倫理学の地平が形成されていった点である。

たとえば、レヴィナスはその第一主著『全体性と無限』(1960年)のなかで「顔」という基幹概念を彫琢するさい、他者が生存する場所と私が生存する場所との倫理的関係に哲学的視線をむけていた。ここにレヴィナスによる哲学的翻訳の事例がある。すなわち、①存在と無にかんする存在論的思考へと顔概念をひとまずは翻訳することで、②生存の偶然性という観点を導入し、レヴィナスの前期思想と中期思想との連続性が確認される。しかし、③そうした存在論的思考の言葉では語り尽せない事柄として顔の無限性が照らし出され、④この無限性という観点から、生存の場所という問題と『全体性と無限』の独自性との結びつきが証示される。つまり、他者に対する無限の応答可能性ゆえに私の生存する場所へと他者から倫理的意味が与えられていくことが明らかになる。この応答関係が自己他者間の原超越であり、現在の自己と未来的他者の時間的関係なのである。

レヴィナスが独自の哲学的思考を展開して以来、時間的意味の生成がおこなわれる原初の場を自己他者関係と見定める徹底性は、以上のようにつらぬかれている。

こうしてハイデガーとレヴィナスの相互照明を進める途上で、九鬼周造による「いき」の倫理学はその楕円の理論体系に残る余白を埋めうるということが判明した。つまり、レヴィナスの時間論は男女間のエロス論として形成され、それはハイデガーがその講義『哲学入門』で触れた性的差異の議論に対する批判にもとづいていたのだが、九鬼もまたハイデガーに学びながら、男女間のエロス論を時間の観点から語り出していたからである。したがって本研究では、「いき」の倫理学を時間と世界の観点から特徴づけ、その内実を以下のように明らかにした。

「遇うて空しく過ぐる勿れ」。

『浄土論』を参照しながら、九鬼がその主著『偶然性の問題』(1935年)を結ぶ一文に引いた言葉である。この言葉に集約される彼の哲学は、偶さかの出会いに結ばれた二人がともに存在することの意味を一種の輪廻的時間——「回帰的形而上学的時間」——から了解すること、ここに重心がある。この観点から見れば、『「いき」の構造』(1930年)は、邂逅の偶然から原始偶然までのすべてが限りなき輪廻的回帰のなかであるがままに肯定される運命愛の瞬間において、「いき」な恋仲の二人が善美に輝くさまをとらえる試みであった。九鬼は、様々な偶然性の底が抜けて原始偶然に至るまで、共同存在の意味を形而上学的時間のうちに希求したわけである。

また「いき」の倫理学は、苦界と世間に注目した社会哲学的な世界論でもある。

では、同一世界を苦界と世間へと分かつのは何だったか。

徳である。その一つに、世間の夫婦関係を規定した「貞」がある。近松の世話物『大経師昔暦』に登場するヒロイン「おさん」が「男持つならたつた一人もつものぢや」と言ったように、貞は女性が「二夫に仕えない」ことをその主要な意味としていた。反対に、苦界はその貞を欠いた世界である。こうして諸徳の妥当範囲で世界は色分けされていくのだが、門脇俊介の九鬼解釈によれば、苦界にもそうした徳がある。遊女が町人と〈いき〉に戯れる仕方を導く「諦め」と「意気地」である。これらは苦界を生き抜く卓越性という意味での徳であり、「いき」を成り立たせる契機であった。

このように「いき」概念を時間・倫理・超越の観点からその内実を明らかにしていくことで、世界の徳倫理学とも言うべき地平が開かれた。

最後に、上記のような倫理的二者関係の考察をふまえ、そこからもう一步を踏み出し、ハイデガーのホーリズムを手がかりに、ジョセフ・ナイが提唱したスマート・パワー概念のもと、三者以上の政治的関係が規定される仕組みを解き明かした。具体的に言えば、スマート・パワーの観点からアメリカ公民権運動における「非暴力的抵抗」の分析を行ない、変革を求める人びとが他者の流血を回避しながら、社会制度を新たに示した抵抗戦略に政治哲学の光をあてた。

この政治哲学的解明は、抵抗戦略の目的手段連関を明らかにするため、ハイデガーの存在論的カント解釈がそなえる目的手段連関のホーリズムを考察の手がかりとして、人間と社会のホーリズムに迫った。すなわち、有限な人間一人ひとりが生きる様々なテクニカル状況は当人にとって「可能無限」であるが、それらは、「統整的理念」のもと、ホ

ーリスティックに織り合わされて人間的な全体化が遂行される一方、社会的コンテクストもそうした人間一人ひとりが所属してホーリスティックに織り上げられていく。ここには、人間と社会の両者が行き来するホーリズムが見出される。このように人びとは社会生活を通じて諸コンテクストを形成していく仕組みのもと、ナイが提示した概念「コンテクストを見抜く知性」をアメリカ公民権運動の指導者キング牧師は発揮しえたのである。

本研究では、こうしてハイデガーの世界論を特徴づけるホーリズムにそなわる射程を政治哲学や社会哲学の領域にまで伸ばしている。

かつてアリストテレスは『ニコマコス倫理学』と『政治学』を連続させて彼の哲学体系を形作っていた。この哲学的発想にならいつながら、まずはハイデガー哲学とレヴィナス倫理学の楕円的哲学体系に対して現象学的時間論を貫徹させることが本研究では試みられた。政治哲学的解明への展開をはらみつつ、現象学的探究を通じて〈時間のエティカ〉という中心領域を照らし出したわけである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

横地徳広、場所と倫理——〈顔〉概念をめぐる、『フィロソフィア・イフテ』、岩手哲学会、査読有、第41号、2009年11月1日、15～30頁、

横地徳広、〈いき〉と時間——九鬼周造試論、『現象学年報』、日本現象学会、査読有、第27号、2011年11月5日、89～96頁、

[学会発表] (計3件)

横地徳広、九鬼周造とその母、日本比較文化学会、中部支部第3回研究会、静岡労政会館、2012年9月22日、口頭発表、

横地徳広、アメリカ公民権運動の抵抗戦略——スマート・パワーの観点から読み解く、戦略研究学会、第10回大会、明治大学、2012年4月22日、口頭発表、

横地徳広、〈いき〉と時間——九鬼試論、日本現象学会、第32回大会、東京大学、2010年11月27日、口頭発表、

[図書] (計1件)

吉川孝、横地徳広、池田喬、編著、生きることに責任はあるのか——現象学的倫理学の試み、弘前大学出版会、2012年9月20日、xvii+305頁、担当箇所は、序章「生と責任をめぐる思考の諸形—まえがきに代えて」、第五章「E・レヴィナスと場所のエティカー〈汝、殺すなかれ〉再考」、第十章「九鬼周造と〈いき〉のエティカー—善美なる生を求めて」、

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/view?u=100000236>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横地徳広 (YOKOCHI NORIHIRO)

弘前大学・人文学部・講師

研究者番号：00455768

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

吉川孝 (YOSHIKAWA TAKASHI)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：20453219

池田喬 (IKEDA TAKASHI)

明治大学・文学部・専任講師

研究者番号：70588839